

愛知県自然環境保全地域

山中八幡宮



愛知県自然環境保全地域とは

わたしたちが、健康で文化的な生活を享受していくためには、単に物質的な豊かさのみでなく、自然とのかかわりの中で、豊かな精神性を養うことが必要です。自然は、生命をはぐくむ母体であり、単に経済活動のための資源としての役割を果たすのみでなく、それ自体が豊かな人間生活に不可欠な役割をもっています。

このため、自然環境保全施策の基本となる法制度として、国においては、昭和47年に「自然環境保全法」が、愛知県においては、昭和48年に「自然環境の保全及び緑化の推進に関する条例」が制定されました。

愛知県自然環境保全地域は、この条例によって指定されるもので、すぐれた天然林や貴重な動植物の自生地などの貴重な自然環境を有する地域を、わたしたちの共通の財産として、将来にわたって保全しようとするものです。

山中八幡宮の自然

山中八幡宮は、岡崎市南東部の舞木町に位置しています。

山中八幡宮の社叢は、ツブラジイを主とする常緑広葉樹林が覆う、標高106m程の小さな丘となっています。常緑広葉樹林の社叢としては、県内では規模が大きく、林の中には県内では数が少ないリミノキ、オオフユイチゴなど暖地性の種が多く生育しています。

また、本社叢は「ヒメハルゼミの生息地」として市の天然記念物に指定されています。その他に、昆虫では、県内では数が少ないオオゴキブリなどが生息しています。

県内ではこのような良好な自然環境を有する地域は少なくなっています。



ツブラジイ（コジイ）の林

ツブラジイの果実（ドングリ）は、他のドングリに比べ、渋みが少ないため、昔は、緊急時の食料とされていました。

山中八幡宮の動物

昆虫類では、暖地系の種であるヒメハルゼミが生息しています。本種は、「生きた化石」といわれ、太古この地域が暖帯照葉樹林で覆われていた頃から生き残っている種で、現在では当時の林相が残されている地域のみで生息する貴重な昆虫です。

また、県の準絶滅危惧種であるオオゴキブリも生息しています。本種も暖地系の種で、分布する場所は照葉樹林に限られており、その環境条件を示す「指標種」として扱われています。その他、ヒメハンミョウやハグロカワトンボが見られます。

さらに、鳥類ではアカハラやフクロウがツブラジイの木に留まっている姿もみられます。しかし、アカハラは夏季に山間部の原生林に生息し繁殖しており、またフクロウが繁殖するような樹洞のある大木は本社叢内で確認されていないため、本社叢は餌場として利用されているようです。



ヒメハルゼミ（オス）

7月から8月にかけて見られます。複数で合唱して鳴くことが多く、多数が鳴き出すと、林全体が鳴っているように感じられます。



オオゴキブリ

家屋にいるゴキブリとは異なり、森の中に生息し、朽木の樹皮の下で、朽木を食べて生活する珍しい昆虫です。

山中八幡宮の植生

本社叢のツブラジイの常緑広葉樹林は、天然生林（伐採の後、天然更新により再生した森林）であり、社叢としては、県内屈指の大きなものです。

注目される種として、県下では生育数が少なく、東三河以外では、本社叢が唯一の産地であるルリミノキや、オオフユイチゴといった分布の北限に近い植物の存在が確認され、またその他にベニシダ、トウゴクシダなどのシダ類、ミミズバイ、クロバイ、コ克蘭など暖地性の種の生育が多く確認されるのが特徴です。

また、参道入口前にあるクスノキの巨木は、通称「八幡さんの大クス」と呼ばれ、市の天然記念物に指定されています。



実

ルリミノキ（アカネ科）
秋には、美しいルリ色（青色）の果実が実ります。
（愛知県の準絶滅危惧種）



花



参道入口前にあるクスノキの巨木
通称「八幡さんの大クス」



オオフユイチゴ（バラ科）
常緑のつる性小低木。
葉は、フユイチゴに似ているが、それより大きくて厚い。

自然をとうとび、自然を愛し、自然を親しもう。
自然に学び、自然の調和をそこなわないようにしましょう。
美しい自然、大切な自然を永く子孫に伝えよう。
自然保護憲章より

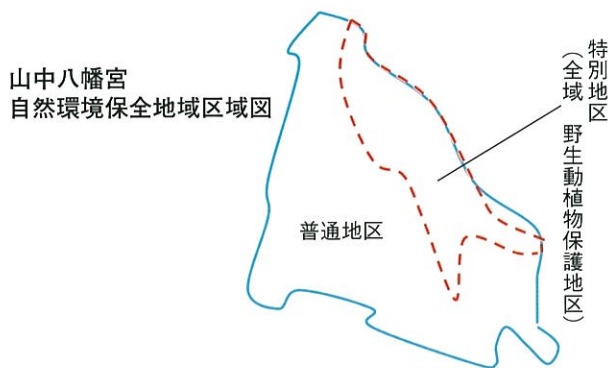
やまなかはちまんぐう
愛知県山中八幡宮自然環境保全地域の保全計画

(平成16年2月27日指定)

指 定 理 由

常緑広葉樹林の社叢としては、県内では規模が大きく、その構成種の中にはミミズバイが生育し、林床には愛知県の準絶滅危惧種であるルリミノキ、オオフユイチゴの群落が生育していることが本社叢の特徴の一つであります。昆虫では、愛知県の準絶滅危惧種であるオオゴキブリが生息しており、また「ヒメハルゼミの生息地」として本社叢は市の天然記念物に指定されています。

したがって、これらの自然環境を保全するため、自然環境の保全及び緑化の推進に関する条例20条第1項第4号の植物の自生地、野生動物の生息地として愛知県自然環境保全地域に指定するものです。



保 全 計 画

1 保全すべき自然環境の特質

(1) 野生動物

本社叢には、昆虫では暖地系の種で自然林などに生息し、県内では少なくなったとされるオオゴキブリが生息しており、また暖地系の種であるヒメハルゼミが生息しています。

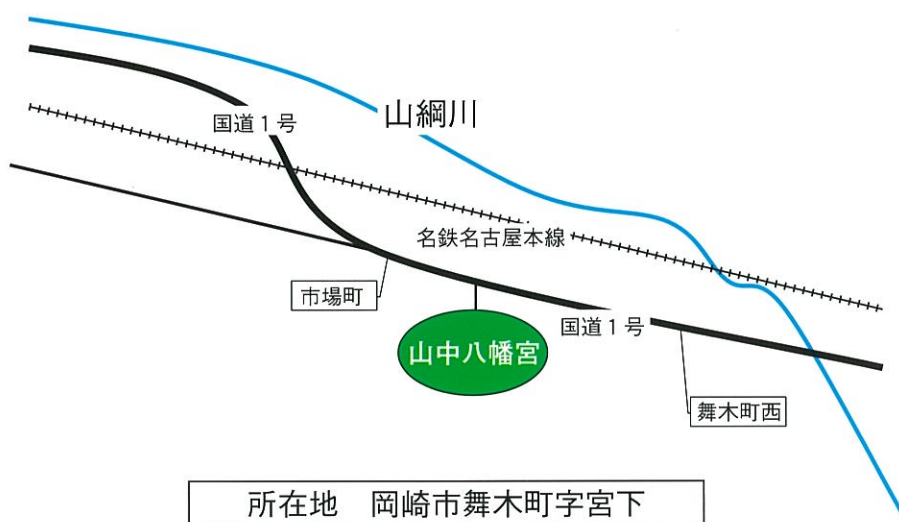
(2) 植 生

本社叢の植生は、丘の東側斜面は常緑広葉樹である主としてツブラジイの天然生林で、西側斜面はヒノキ植林地となっています。この常緑広葉樹林の本社叢は、郷土景観を代表する植物群落と言え、愛知県西三河南半に残された天然生林の中でも大きなものです。

また、注目される種として、県下では生育数が少ないルリミノキ、オオフユイチゴといった分布の北限に近い植物が生育しています。

2 面 積

特別地区	普通地区	合 計
1.55ha (全域野生動物保護地区)	3.95ha	5.50ha



問い合わせ先

愛知県環境部自然環境課
 名古屋市中区三の丸3-1-2
 電話 (052)961-2111(代)

愛知県西三河事務所環境保全課
 岡崎市明大寺本町1-4
 電話 (0564)23-1211(代)

岡崎市環境部環境総務課
 岡崎市十王町2-9
 電話 (0564)23-6495(代)

愛知県リサイクルマーク



再生紙(古紙配合率100%)を使用しています。

